

3 調査結果の詳細

※本項では一般調査（県内在住の一般県民が対象）の結果に特別調査（県内在住の地域代表者・県政モニター等が対象）の結果を織り交ぜて記載する。

問1 いま住んでいる地域は総合的にみて“住みやすい”か？

（全体集計）

- 『住みやすい』（注1）が65.9%を占めて最も多く、以下、「なんともいえない」が19.5%、『住みにくい』（注2）が14.1%であった。『住みやすい』の内訳は「とても住みやすい17.2%：どちらかといえば住みやすい48.7%」、『住みにくい』の内訳は「とても住みにくい2.8%：どちらかといえば住みにくい11.3%」であり、いずれも「どちらかといえば」というやや不安定な理由による選択が多くを占めている。

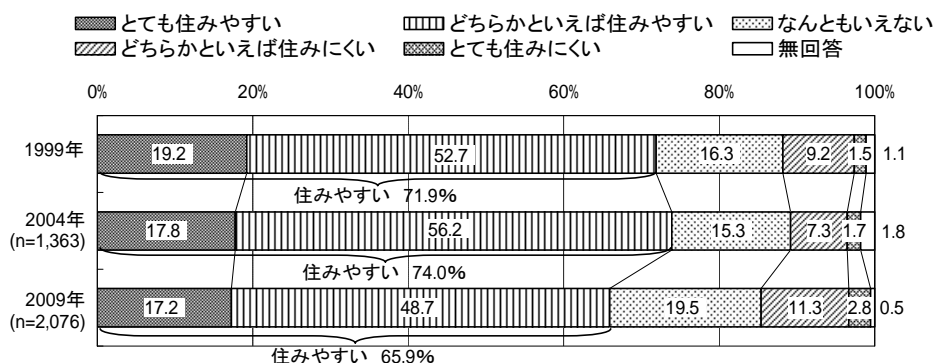
（注1）「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計。以下、同じ。

（注2）「とても住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の合計。以下、同じ。

前回調査と比べると、『住みやすい』が8.1ポイント減少（前回74.0%→今回65.9%。以下同じ。）し、「なんともいえない」が4.2ポイント増加（15.3%→19.5%）、『住みにくい』が5.1ポイント増加している（9.0%→14.1%）。

- 『住みやすい』『住みにくい』の内訳を見ると、「とても住みやすい」（▲0.6ポイント）、「とても住みにくい」（+1.1ポイント）の増減幅はいずれも僅かであることに比べて、「どちらかといえば住みやすい」（▲7.5ポイント）、「なんともいえない」（+4.2ポイント）、「どちらかといえば住みにくい」（+4.0ポイント）の方が増減幅は大きい。相当に確信的な選択である「とても住みやすい」「とても住みにくい」の割合に大きな変化はなかったが、比較的不安定な理由によると思われる「どちらかといえば住みやすい」が減り、同じく不安定な理由によると思われる「なんともいえない」「どちらかといえば住みにくい」が増えたことによって、今回、『住みやすい』が減少する結果となった。

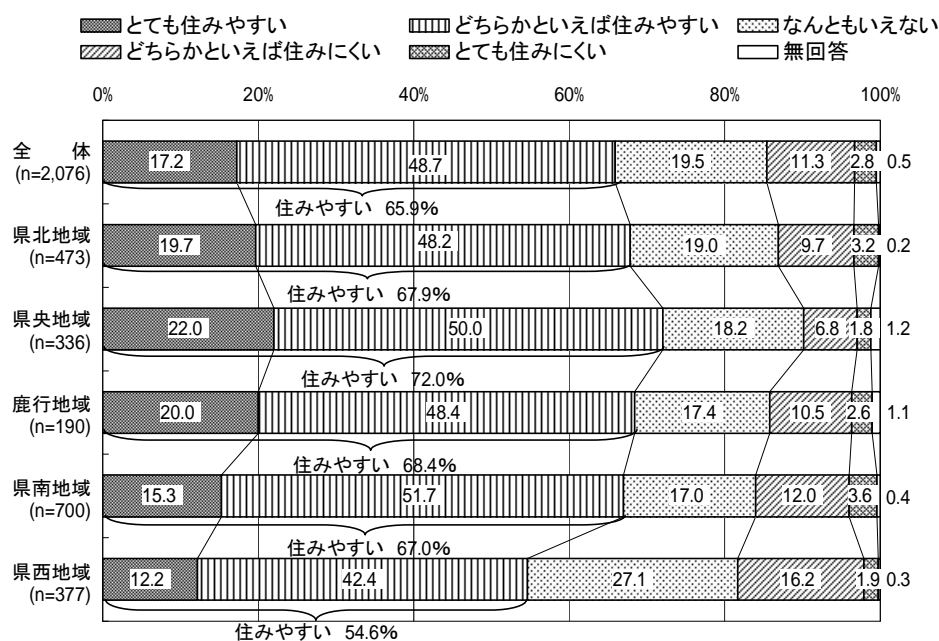
住みやすさ



(地域別)

- 『住みやすい』の割合は県央地域（72.0%）が7割を超えて最も多く、以下、鹿行地域（68.4%）、県北地域（67.9%）、県南地域（67.0%）、県西地域（54.6%）となっており、県西地域での少なさがやや目立つ。
- 前回と比べると、『住みやすい』が多い順位に大きな変動はないが、その割合は全ての地域において減少しており、とくに県西地域（▲12.4ポイント）、県央地域（▲11.5%）、鹿行地域（▲11.2ポイント）での減少度合いが大きい。その内訳を見ると、やはり、「とても住みやすい」に大きな変動はないが、「どちらかといえば住みやすい」が「なんとなくいい」「どちらかといえば住みにくい」へ移行していることが、『住みやすい』減少の大きな要因となっている。

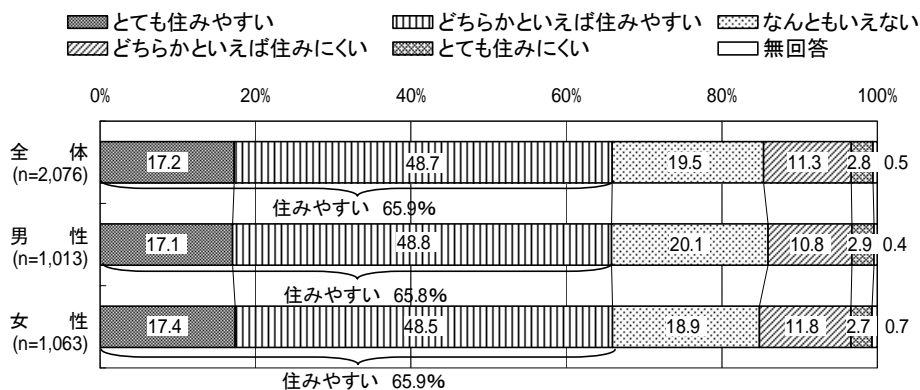
住みやすさ（地域別）



(性別)

- 『住みやすい』の割合は男女いずれも66%弱でほとんど同じであった。
- 前は、同割合は女性(75.1%)が男性(73.0%)より若干多かったが、今回は女性の同割合の減少度合(▲9.2ポイント)が男性(▲7.2ポイント)に比べて大きいことからほぼ同じ割合となった。男女いずれも、「どちらかといえば住みやすい」が「なんともいえない」「どちらかといえば住みにくい」へ移行していることが、『住みやすい』減少の大きな要因となっている。

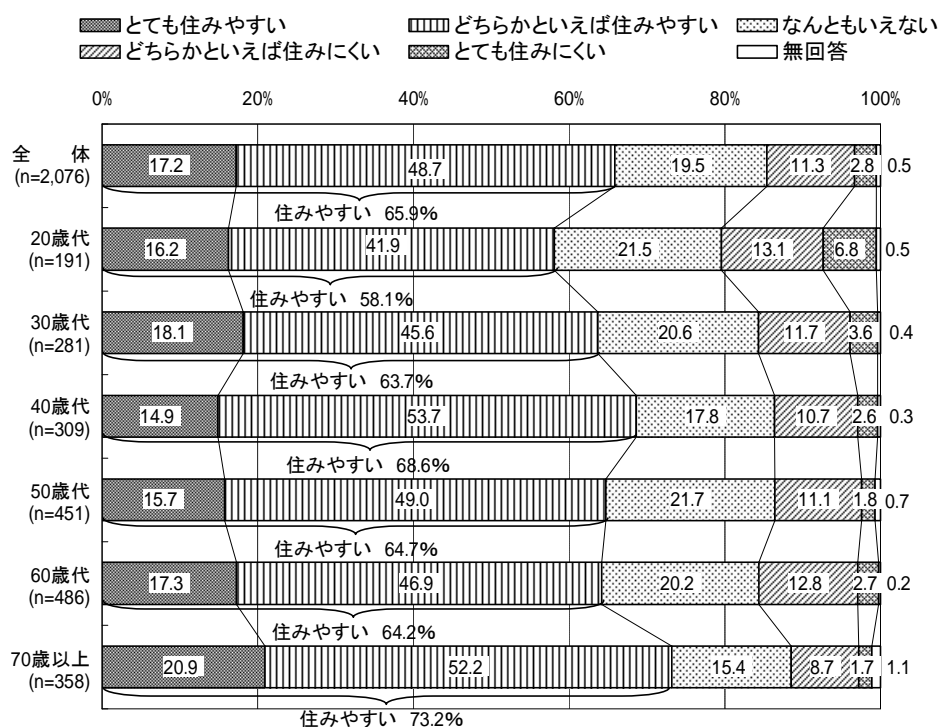
住みやすさ(性別)



(年代別)

- 『住みやすい』の割合は40歳代(68.6%)、70歳以上(73.2%)では70%前後を占めているが、30歳代(63.7%)、50歳代(64.7%)、60歳代(64.2%)では65%弱に減少し、20歳代ではさらに減少して58.1%となる。
- 前回、『住みやすい』の割合は40・50・60歳代では70%超、70歳以上では80%超を占めていたが、今回はいずれの年代においても減少している。その減少度合を見ると、30・40歳代では▲5ポイント未満で比較的小さいが、20歳代および50歳代・60歳代・70歳以上で▲10ポイント前後と大きい。概ね、「どちらかといえば住みやすい」が「なんともいえない」「どちらかといえば住みにくい」へ移行していることが『住みやすい』の減少をもたらしている。ただし、40歳代では「とても住みやすい」が3.9ポイント(11.0% 14.9%)増加していることが他の年代とは異なっており、『住みやすい』の減少度合を少なくさせている。また、70歳以上では「とても住みやすい」の減少度合が▲7.1ポイント(28.0% 20.9%)と大きく、20歳代では「とても住みにくい」の増加度合が+4.2%(2.6% 6.8%)と大きいことが目立つ。

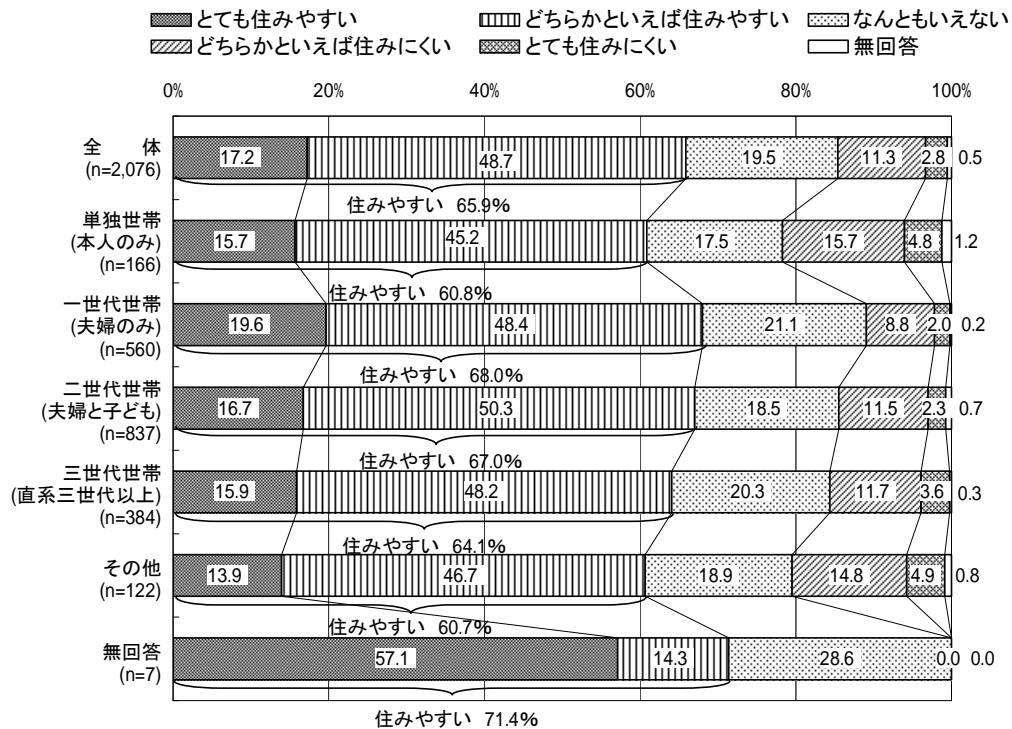
住みやすさ(年代別)



(家族構成別)

- 『住みやすい』の割合は、一世代世帯(68.0%)・二世帯世帯(67.0%)では70%近くを占めているが、三世帯世帯では64.1%に減少し、単独世帯では60.8%と最も少ない。

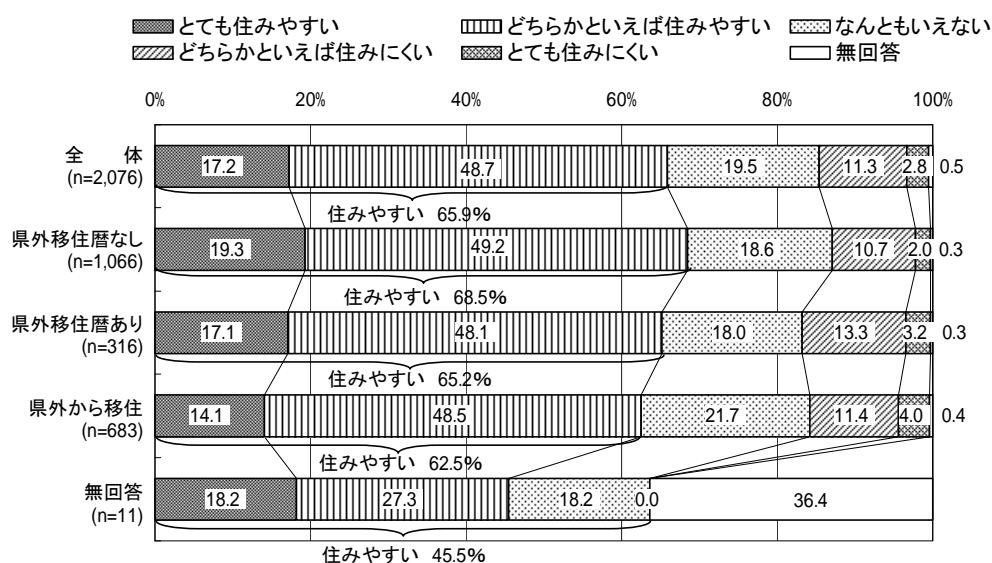
住みやすさ(家族構成別)



(居住歴別)

- 『住みやすい』の割合は、「生まれたときから」が68.5%で最も多く、「一時県外に出てから」が65.2%、「県外生まれ」が62.5%と、茨城県との関係が薄くなるにしたがい少なくなる。
- 前回と比べて、『住みやすい』の居住歴の違いによる順位は変わらないが、その割合はいずれも少なくなっている。そして、その減少割合は、茨城県との関係が濃い「生まれたときから」(▲9.4ポイント)、「一時県外に出てから」(▲10ポイント)の方が、「県外生まれ」(▲4.5ポイント)に比べて大きい。また、「生まれたときから」では「とても住みやすい」も「どちらかといえば住みやすい」もいずれも減少して「なんともいえない」「どちらかといえば住みにくい」が増えるという一方通行の流れとなっているが、「一時県外」「県外生まれ」においては「どちらかといえば住みやすい」が大きく減少するなかで、「とても住みやすい」が増加するという逆の流れも見る事ができる。

住みやすさ (居住歴別)



(現在の満足度別)

- 問5（後述）では30項目にわたり現在の満足度（5段階選択）を聞いているが、開設問の各項目において最高度の満足を示す「満足している」とした回答者について、『住みやすい』とした回答者の割合をみた。
- 「満足している」とした回答者において『住みやすい』が80%（全体平均65.9%）を超えた項目は以下であり、それらの項目は『住みやすい』と考えることと相関性が高いと考えることができる。

「満足している」とした回答者において「住みやすい」とした回答者が多い(80%以上)項目

(単位:%)

(SA)	(n)	問1. 現在の居住地の住みやすさ								無回答
		平均住みやすさ得点	住みやすい			住みにくい				
			とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	なんともいえない	どちらかといえば住みにくい	とても住みにくい			
全体	2,076	3.7	65.9	17.2	48.7	19.5	14.1	11.3	2.8	0.5
27.職業紹介や職業訓練のための施設や内容が充実している										
満足している	24	4.2	87.5	37.5	50.0	8.3	4.2	0.0	4.2	0.0
4.老後の生活に十分な保障がある										
満足している	23	4.3	87.0	43.5	43.5	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7.電車、バスなど公共交通機関が身近にあり便利である										
満足している	194	4.2	86.1	37.6	48.5	10.8	1.5	1.0	0.5	1.5
23.仕事と家庭の両立が図られている										
満足している	105	4.2	83.8	38.1	45.7	7.6	4.8	3.8	1.0	3.8
29.ボランティア活動や市民活動に気軽に参加できる										
満足している	68	4.1	83.8	36.8	47.1	7.4	7.4	7.4	0.0	1.5
1.身近に医療施設(医院や病院)があり、いつでも適切な診療が受けられる										
満足している	345	4.1	83.8	33.0	50.7	8.4	5.8	4.1	1.7	2.0
22.恵まれた学校環境で子供の能力を伸ばす教育が受けられる										
満足している	97	4.2	81.4	39.2	42.3	10.3	6.2	5.2	1.0	2.1
30.県や市町村の行政に住民の要望や意見が十分採り入れられている										
満足している	26	4.2	80.8	50.0	30.8	11.5	7.7	7.7	0.0	0.0
2.子育ての悩みや困りごとを相談できる人や場所がある										
満足している	150	4.1	80.7	32.7	48.0	11.3	6.7	6.7	0.0	1.3
25.外国人との共生社会への対応がなされている										
満足している	40	4.2	80.0	45.0	35.0	7.5	10.0	7.5	2.5	2.5

- 一方、「満足している」とした回答者において『住みやすい』が75%未満であった項目は以下であり、それらの項目は『住みやすい』と考えることと相関性が低い、あるいは「満足している」状態が当たり前の状況であると考えられていると見ることができる。

「満足している」とした回答者において「住みやすい」とした回答者が少ない(75%未満)項目

(単位:%)

(SA)	(SA)	(n)	問1. 現在の居住地域の住みやすさ							無回答	
			平均住みやすさ得点	住みやすい			住みにくい				
				とても住みやすい	どちらかといえば住みやすい	なんとなくいえない	どちらかといえば住みにくい	とても住みにくい			
全体		2,076	3.7	65.9	17.2	48.7	19.5	14.1	11.3	2.8	0.5
21.商品やサービスなどへの不満や苦情について相談できるところがある											
	満足している	39	3.6	64.1	15.4	48.7	17.9	17.9	15.4	2.6	0.0
12.省エネなど地球温暖化防止対策がとられている											
	満足している	21	3.8	66.7	33.3	33.3	19.0	14.3	9.5	4.8	0.0
6.障害児・者などへの支援が充実している											
	満足している	45	3.8	68.9	28.9	40.0	11.1	15.6	13.3	2.2	4.4
13.大気汚染、騒音、悪臭などの公害がない											
	満足している	187	3.9	72.2	32.6	39.6	12.3	13.4	11.8	1.6	2.1
20.地元でとれた良質で、新鮮・安全な野菜や魚、加工品を食べることができる											
	満足している	327	3.9	72.5	28.4	44.0	13.8	12.5	10.1	2.4	1.2
15.生活排水が適切に処理され、河川や湖沼がきれい											
	満足している	165	4.0	72.7	33.3	39.4	12.7	11.5	9.1	2.4	3.0
11.里山など身近な自然環境が守られている											
	満足している	180	3.8	73.3	31.7	41.7	10.6	16.1	10.6	5.6	0.0
14.空き缶などの資源ゴミがリサイクルされている											
	満足している	427	3.9	74.9	24.1	50.8	13.8	10.1	7.7	2.3	1.2

問2 いま住んでいる地域にこれからも“住み続けたい”か？

(全体集計)

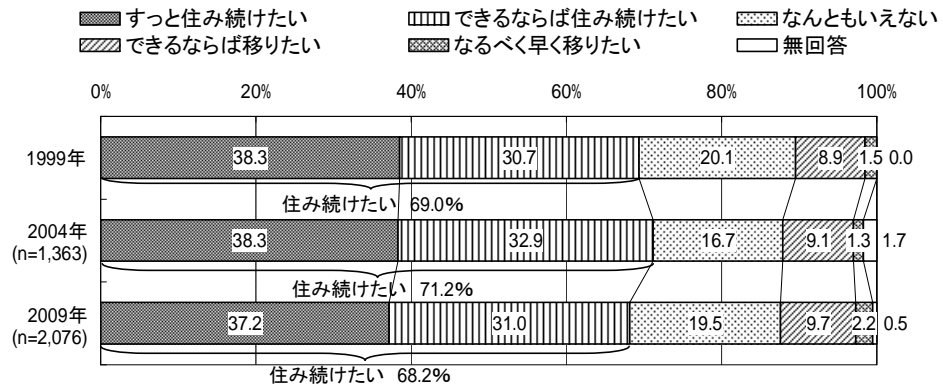
- 『住み続けたい』(注1)が68.2%を占めて最も多く、以下、「なんともいえない」が19.5%、『移りたい』(注2)が11.8%であった。『住み続けたい』の内訳は「ずっと住み続けたい37.2%：できるならば住み続けたい31.0%」で、『移りたい』の内訳は「なるべく早く移りたい2.2%：できるならば移りたい9.7%」となっている。

(注1)「ずっと住み続けたい」と「できるなら住み続けたい」の合計。以下、同じ。

(注2)「なるべく早く移りたい」と「できるなら移りたい」の合計。以下、同じ。

- 前回調査と比べると、『住み続けたい』は3ポイント減少(前回71.2%→今回68.2%。以下同じ。)した一方で、「なんともいえない」が2.8ポイント増加(16.7%→19.5%)、『移りたい』が1.4ポイント増加している(10.4%→11.8%)。
- 『住み続けたい』『移りたい』をさらに分解してみると、「ずっと住み続けたい」「できるなら住み続けたい」はいずれも同じような割合(▲1~2ポイント)で減少しており、それらの減少分の多くが「なんともいえない」の増加(+2.8ポイント)となっており、さらに一部が「なるべく早く移りたい」「できるなら移りたい」の増加をももたらす結果となった。

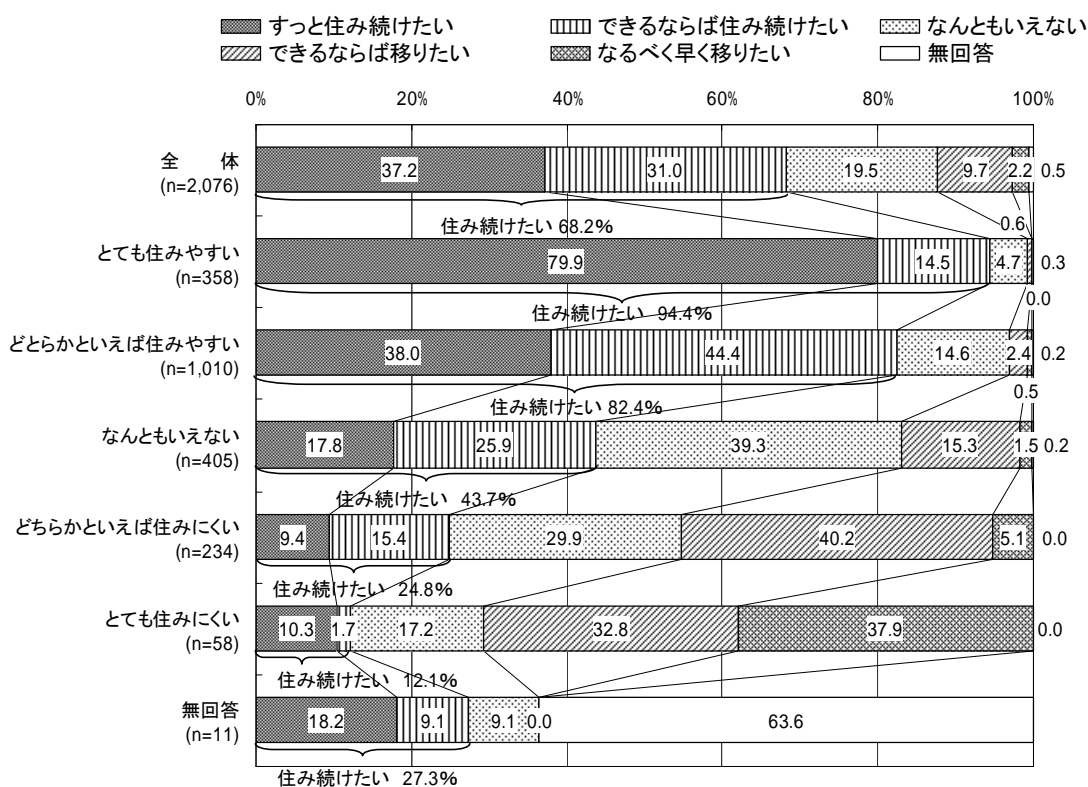
定住意向



(住みやすさ別)

- 『住み続けたい』は「とても住みやすい」とした回答者で94.4%と最も多く、「どちらかといえば住みやすい」においても82.4%を占めている。しかしながら、その内訳は大きく異なっており、「とても住みやすい」とした回答者では、「ずっと住み続けたい」が79.9%を占めているが、「どちらかといえば住みやすい」では同割合は38.0%へと大きく減少する。
- 「なんともいえない」「住みにくい」とした回答者では『住み続けたい』は大きく減少し、「なんともいえない」で43.7%、「どちらかといえば住みにくい」で24.8%、「とても住みにくい」では12.1%であった。

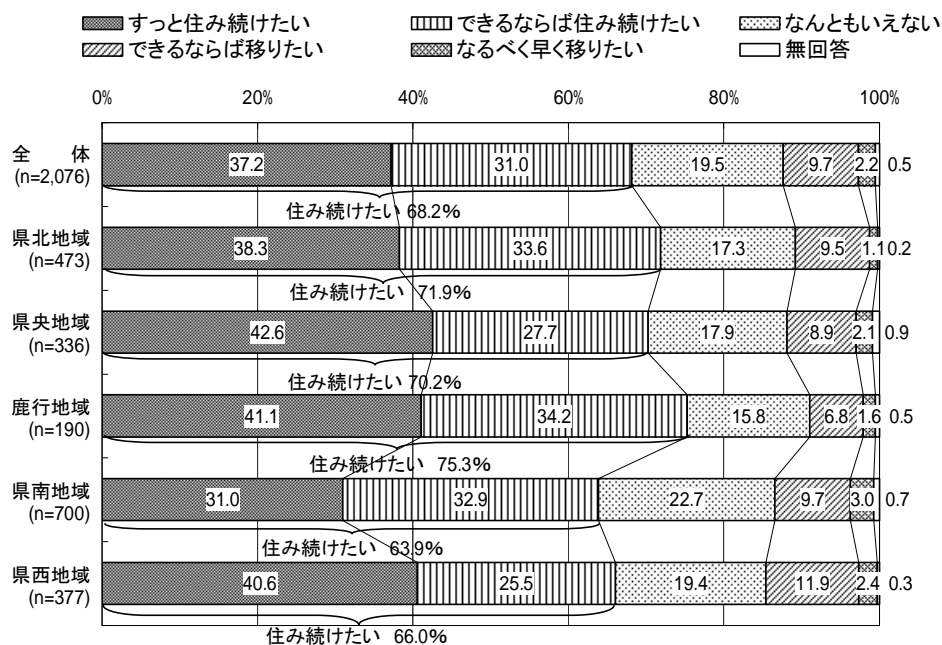
定住意向 (住みやすさ別)



(地域別)

- 『住み続けたい』は鹿行地域で 75.3%を占めて最も多く、県北地域 (71.9%) , 県央地域 (70.2%) も 70%を超えているが、県西地域では 63.9%とやや少なくなり、県南地域が最も少なく 63.9%となる。さらに、強い意思をあらわす「ずっと住み続けたい」の割合を見ると、県南地域では 31.0%であり、他の地域では概ね 40%前後であることに比べて少ない。
- 前回と比べると、『住み続けたい』は鹿行地域で若干増えたが、他の地域では全て減少した。とくに県央地域は前は『住み続けたい』が 79.5%を占めて、その割合順位が 1 位であったが、今回は減少度合が▲9.3 ポイントと最も大きく、順位を 3 位に下げている。

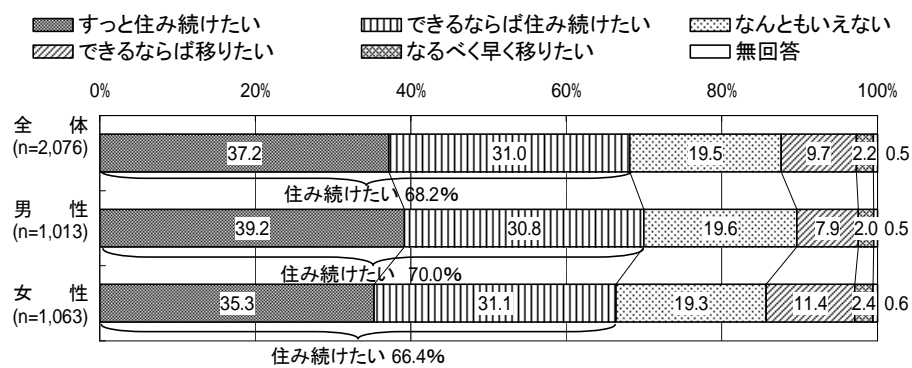
定住意向 (地域別)



(性別)

- 『住み続けたい』は男性が70.0%で女性(66.4%)に比べてやや多い。
- 前回は『住み続けたい』は男性が女性より4.1ポイント多く、今回はいずれも同じように割合が減った。

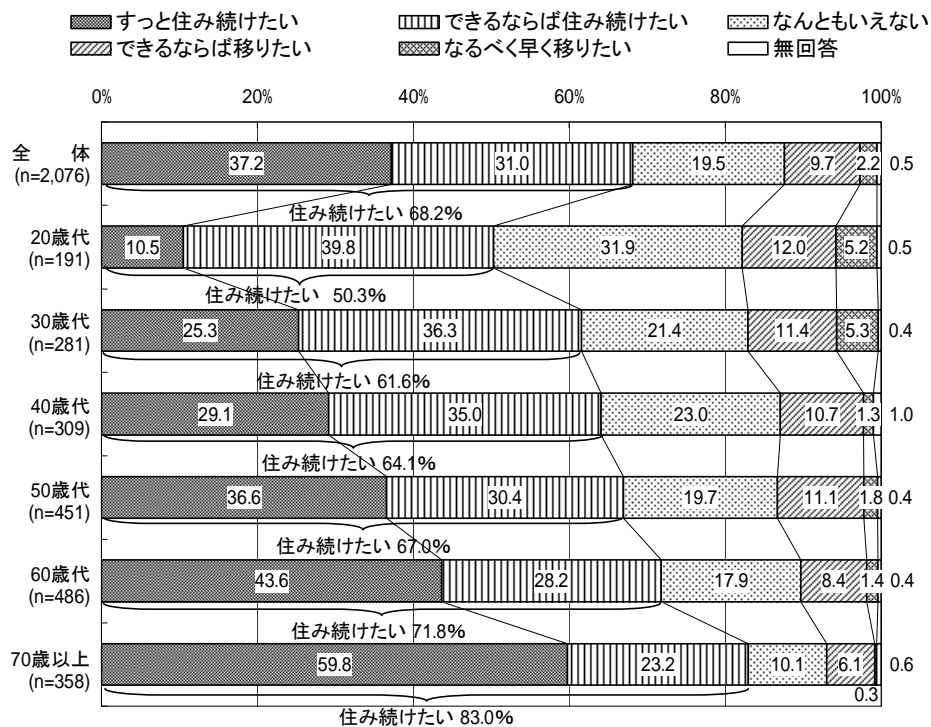
定住意向(性別)



(年代別)

- 『住み続けたい』は20歳代が50.3%で最も少なく、年代が上がるにしたがい確実に多くなり、70歳以上では83.0%となる。
- 前回も全く同様の傾向であったが、『住み続けたい』の割合は今回、30歳代において4.5ポイント増えたものの、他の年代では全て少なくなった。

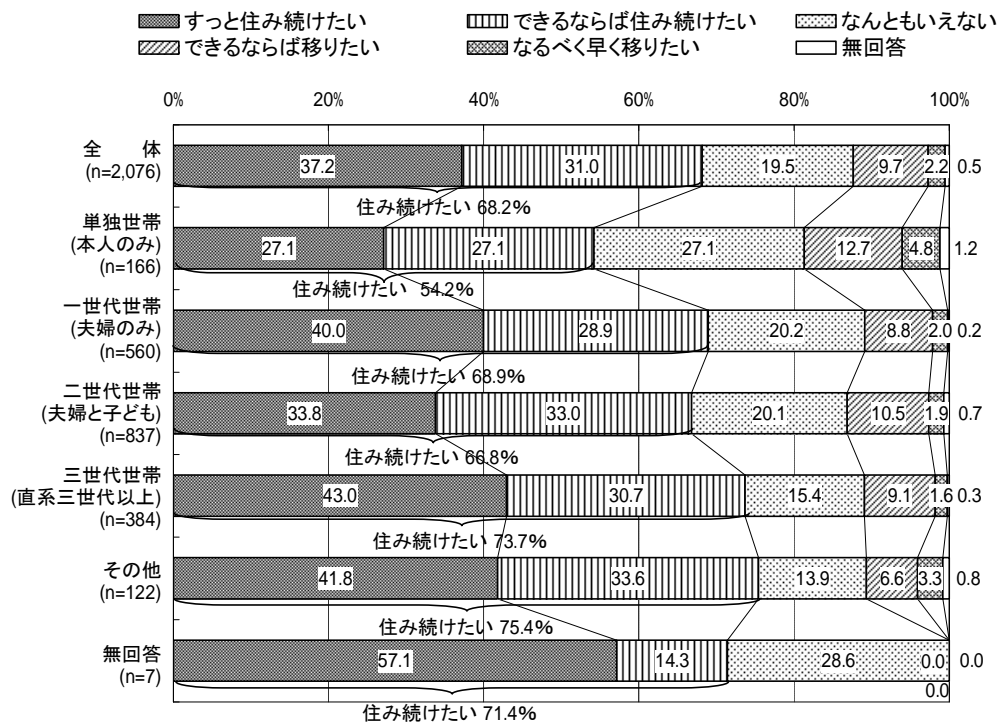
定住意向（年代別）



(家族構成別)

- 『住み続けたい』は三世帯世帯で 73.7%と最も高く、一世代世帯 (68.9%)，二世帯世帯 (66.8%) も 70%近くを占めているが，単独世帯では 54.2%と少なくなる。

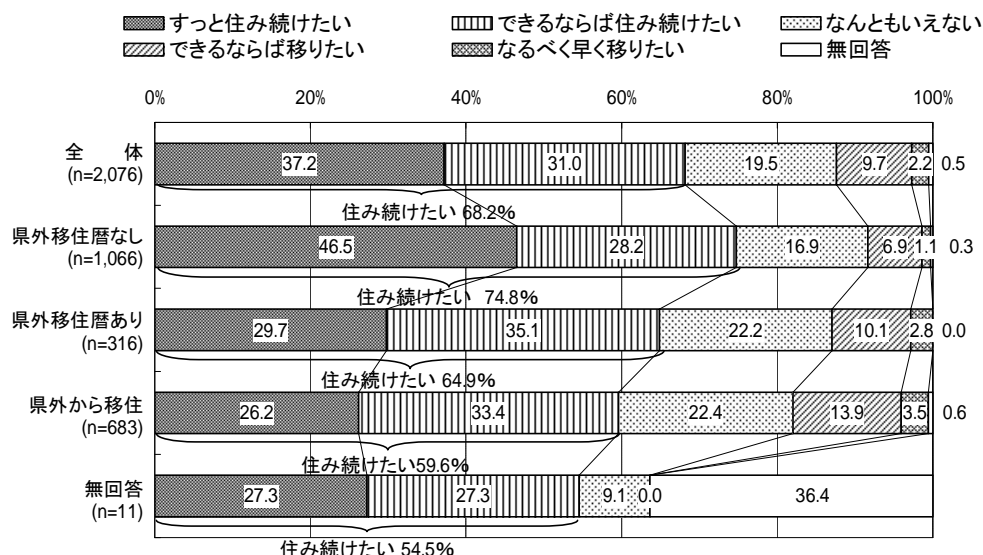
定住意向 (家族構成別)



(居住歴別)

- 『住み続けたい』の割合は、「生まれたときから」が74.8%で最も多く、以下、「一時県外に出てから」が64.9%、「県外生まれ」が59.6%で、茨城県との関係が薄くなるにしたがい少なくなる。
- 前回と比べて、『住み続けたい』の居住歴の違いによる順位は変わらないが、その割合を見ると、茨城県との関係が濃い「生まれたときから」「一時県外」で減少した一方で、「県外生まれ」では若干ながら増加した。さらにその内訳を見ると、「生まれたときから」「一時県外」では「ずっと住み続けたい」の減少度合の方が「できるならば住み続けたい」の減少度合より大きく、それらの減少分の多くが「なんともいえない」の増加となっている。一方、「県外生まれ」では「できるならば住み続けたい」「なんともいえない」が減少し、その減少分の多くが「ずっと住み続けたい」の増加となっている。

定住意向（居住歴別）

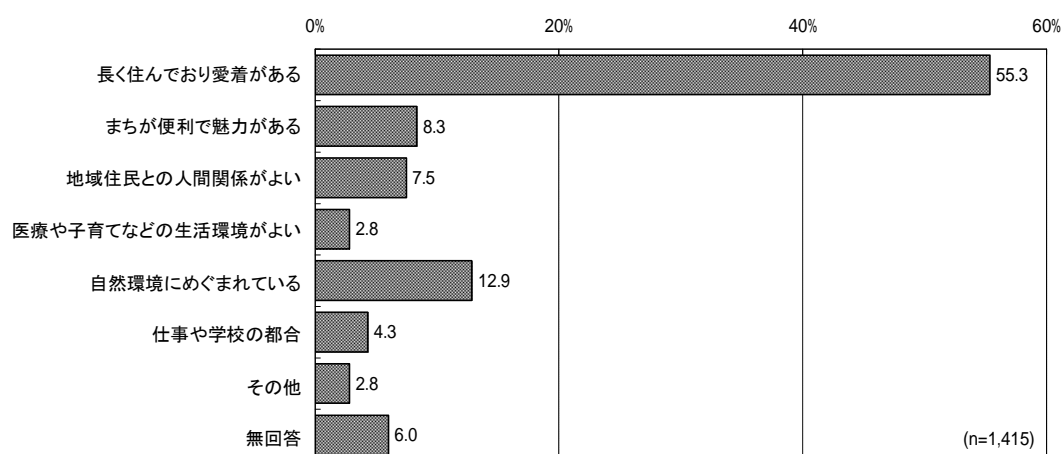


問3-1 「住み続けたい」の理由

(全体集計)

- 「住み続けたい」とした回答者(全回答者の68.2%)にその理由を聞いたところ、「長く住んでおり愛着がある」が過半数(55.3%)から挙げられた。それ以外の理由は分散し、選択率も低いが、中では「自然環境に恵まれている」(12.9%)、「まちが便利で魅力がある」(8.3%)、「地域住民との人間関係が良い」(7.5%)が10%前後を占めた。
- 選択肢が異なるので正確な比較はできないが、前回も「長く住んでおり愛着がある」が半数近く(48.5%)を占めて最も多く、それ以外の理由は分散していたが、次いで「自然環境に恵まれている」(17.7%)であった。

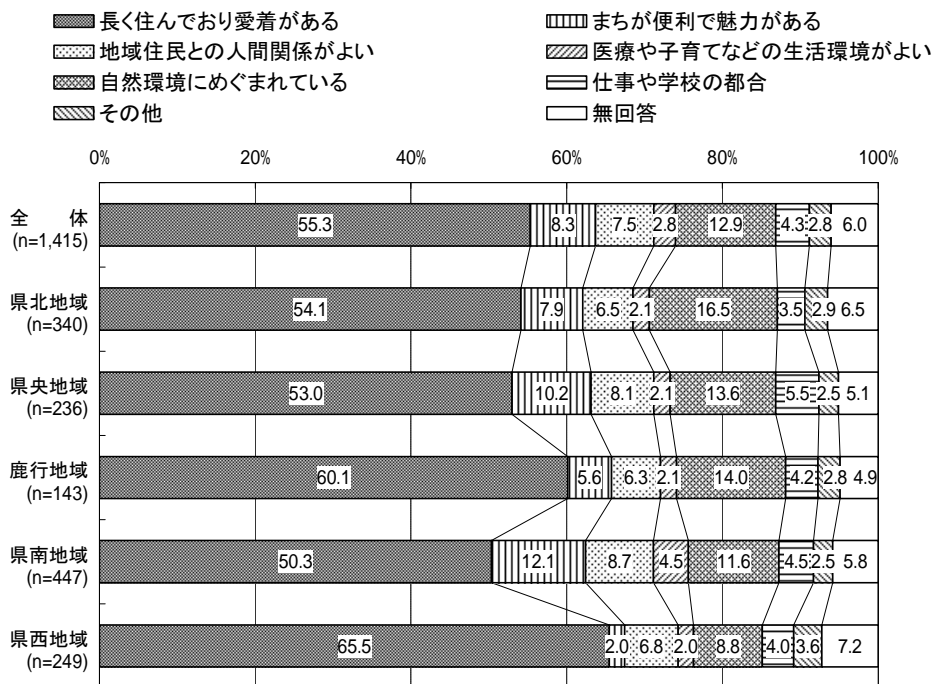
「住み続けたい」の理由



(地域別)

●全ての地域で「長く住んでおり愛着がある」が過半数から挙げられ最も多い。それに次ぐ理由もほとんどの地域で「自然環境に恵まれている」が挙げられ15%前後を占めているが、県南地域では「まちが便利で魅力がある」が12.1%を占めて「自然環境に恵まれている」(11.6%)より若干多い。

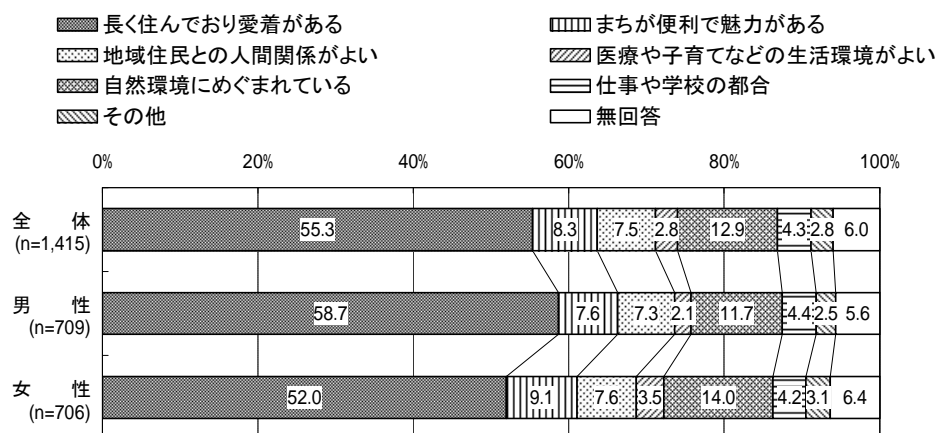
「住み続けたい」の理由(地域別)



(性別)

- 男女いずれにおいても、「長く住んでおり愛着がある」が過半数から挙げられて最も多く、それ以外の理由については男女いずれも分散する中で「自然環境に恵まれている」が10%を超えるという結果であった。
- 但しその割合は若干異なっており、「長く住んでおり愛着がある」は男性(58.7%)が女性(52.0%)より多く、「自然環境に恵まれている」は女性(14.0%)が男性(11.7%)より多い。

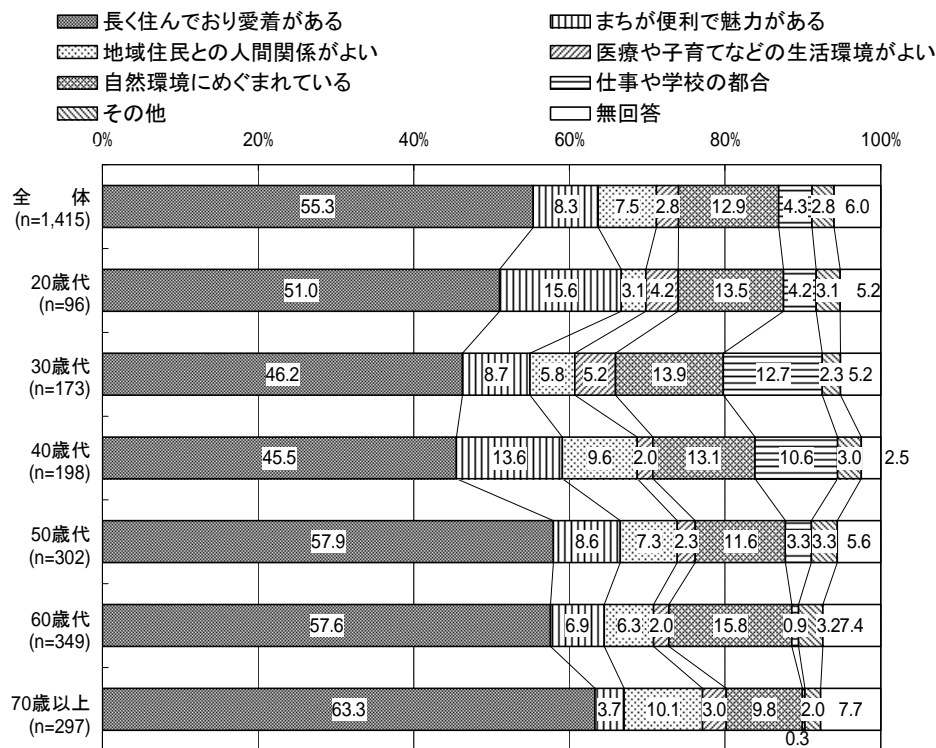
「住み続けたい」の理由(性別)



(年代別)

- いずれの年代においても「長く住んでおり愛着がある」が最も多く挙げられた。その割合を見ると、50・60歳代、70歳以上では60%前後を占め、20歳代でも50%を若干ながら超えているが、30・40歳代では半数を下回り46%前後とやや少なくなる。
- それに次ぐ理由としては、30・50・60歳代では「自然環境に恵まれている」が挙げられているが、20・40歳代では「まちが便利で魅力がある」が、70歳以上では「地域住民との人間関係がよい」が挙げられており、年代によってやや異なる。
- また、30・40歳代では「仕事や学校の都合」が10%を超えていることが他の年代とは異なっている。

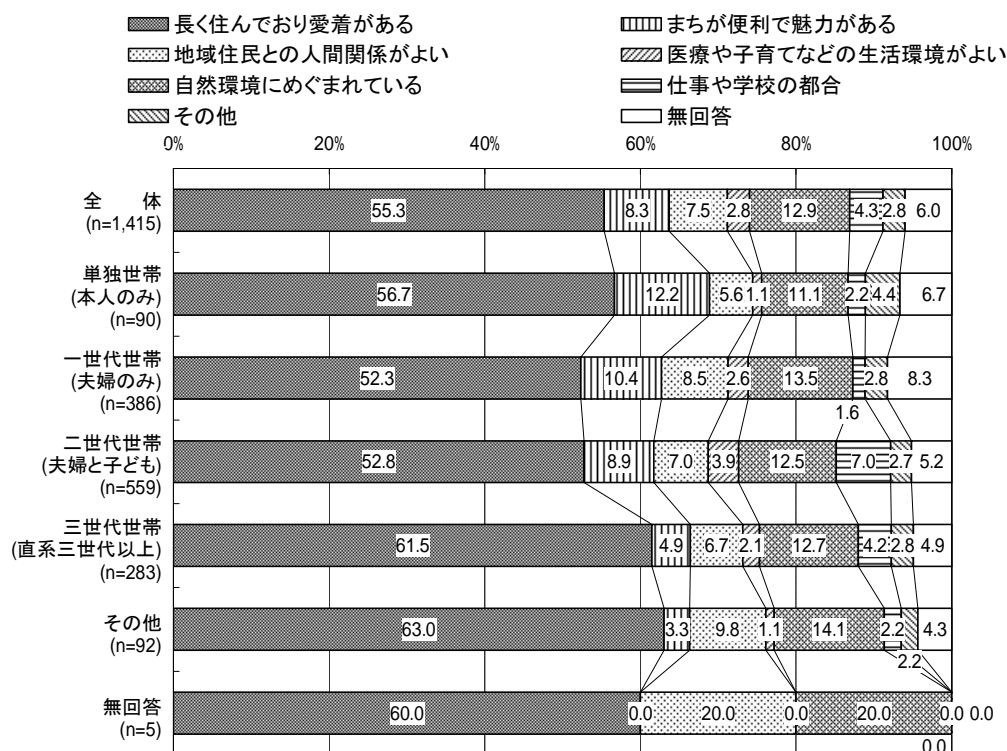
「住み続けたい」の理由（年代別）



(家族構成別)

- いずれの家族構成においても「長く住んでおり愛着がある」が最も多く挙げられている。その割合を見ると、「三世代世帯」(61.5%)、「単独世帯」(56.7%)では60%前後を占めているが、「一世代世帯」(52.3%)、「二世代世帯」(52.8%)では50%強とやや少なくなる。
- それに次ぐ理由としては、ほとんどの世帯で「自然環境に恵まれている」が挙げられているが、「単独世帯」では「まちが便利で魅力がある」が挙げられている。

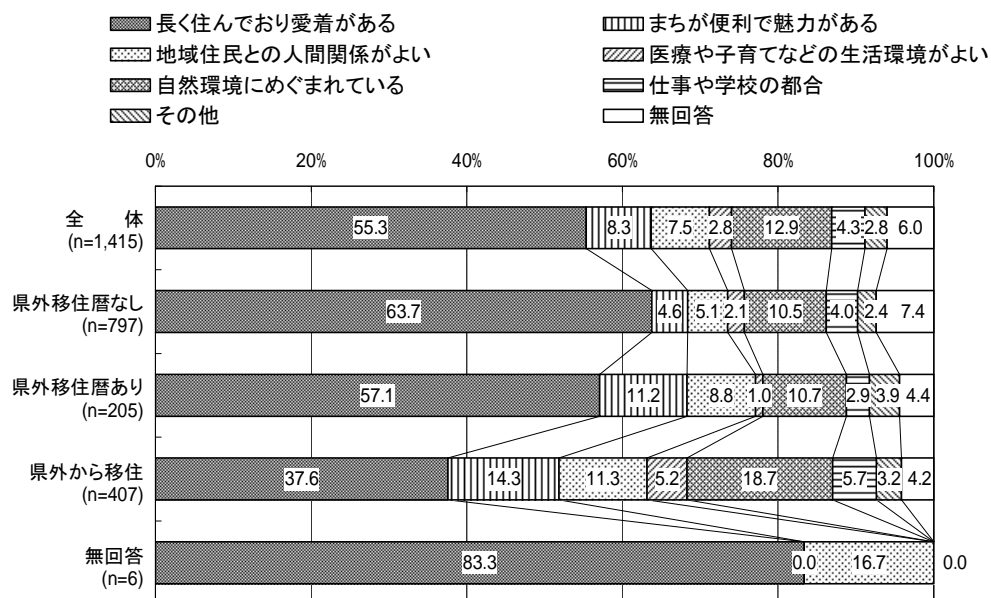
「住み続けたい」の理由(家族構成別)



(居住歴別)

- いずれの居住歴においても「長く住んでおり愛着がある」が最も多く挙げられたが、その割合は大きく異なっており、「生まれたときから」「一時県外」では60%前後を占めているが、「県外生まれ」では37.6%へと大きく減少する。
- それに次ぐ理由としては、「生まれたときから」では「自然環境に恵まれている」が挙げられたが、「一時県外」では「まちが便利で魅力がある」が挙げられた。また、「県外生まれ」の場合は選択がやや分散しており、「自然環境に恵まれている」(18.7%)、「まちが便利で魅力がある」(14.3%)、「地域住民との人間関係がよい」(11.3%)のいずれもが10%を超えている。

「住み続けたい」の理由 (居住歴別)

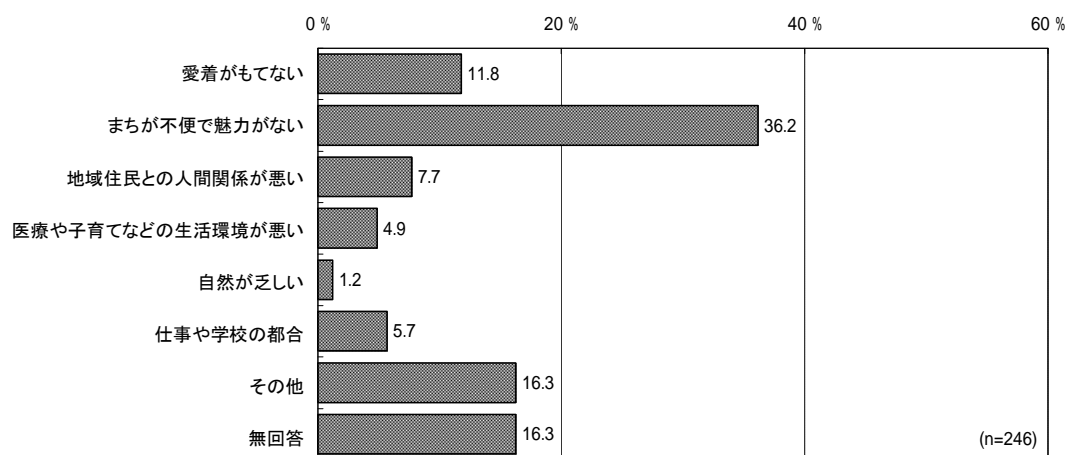


問3-2 「移りたい」の理由

(全体集計)

- 「移りたい」とした回答者（全回答者の11.8%）にその理由を聞いたところ、「まちが不便で魅力がない」を回答者の1/3強（36.2%）が挙げて最も多い。それ以外の理由は分散しているが、なかでは「愛着が持てない」が11.8%で比較的多く、以下、「地域住民との人間関係が悪い」（7.7%）、「仕事や学校の都合」（5.7%）、「医療や子育てなどの生活環境が悪い」（4.9%）、「自然が乏しい」（1.2%）と続く。しかしながら、「その他」（16.3%）と「無回答」（16.3%）が合わせて32.6%と3割弱を占めており、移りたい理由には一口では言えない部分も多いと思われる。
- 選択肢が異なるので正確な比較はできないが、前回も「まちが不便で魅力がない」が41.8%を占めて最も多く、次いで「医療・子育てなどの生活環境が悪い」（16.3%）であり今回と同様であるが、その割合は低下しており、移りたい理由は多様化する傾向にある。

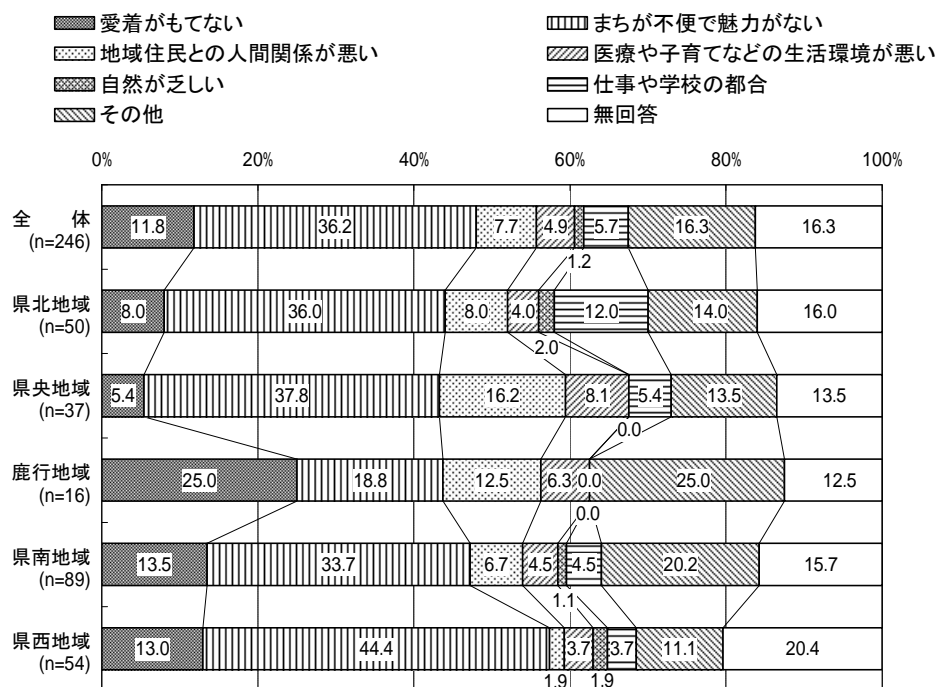
「移りたい」の理由



(地域別)

- ほとんどの地域で「まちが不便で魅力がない」が30%を超えて最も多く挙げられており、とくに県西地域ではその割合が44.4%と多いが、鹿行地域では「愛着がもてない」が25.0%を占めて最も多く挙げられた。
- それに次ぐ理由は地域によって異なっており、県北地域では「仕事や学校の都合」(12.0%)，県央地域では「地域住民との人間関係が悪い」(16.2%)，県南地域では「愛着が持てない」(13.5%)が挙げられた。

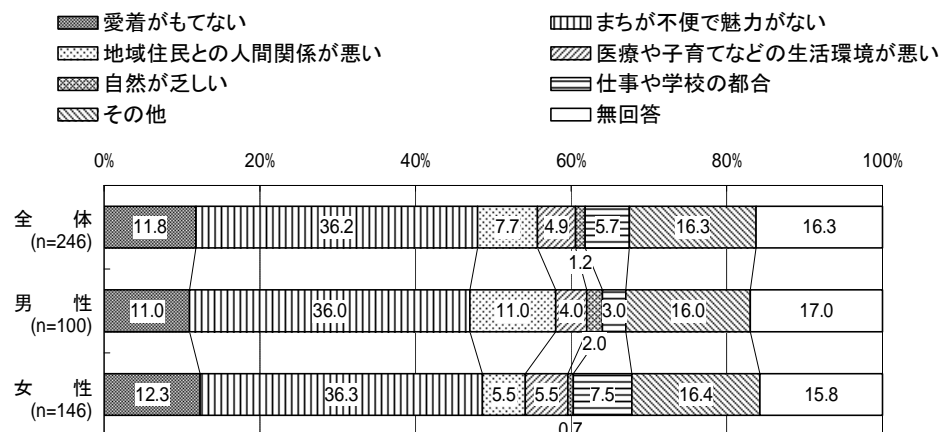
「移りたい」の理由（地域別）



(性別)

●男女いずれも、「まちが不便で魅力がない」が36%強で最も多く、次いで「愛着が持てない」が10%強を占めており、違いはほとんど無いが、「地域住民との人間関係が悪い」について、男性は11.0%を占めており、女性では5.5%であることに比べて多い事がやや目立つ。

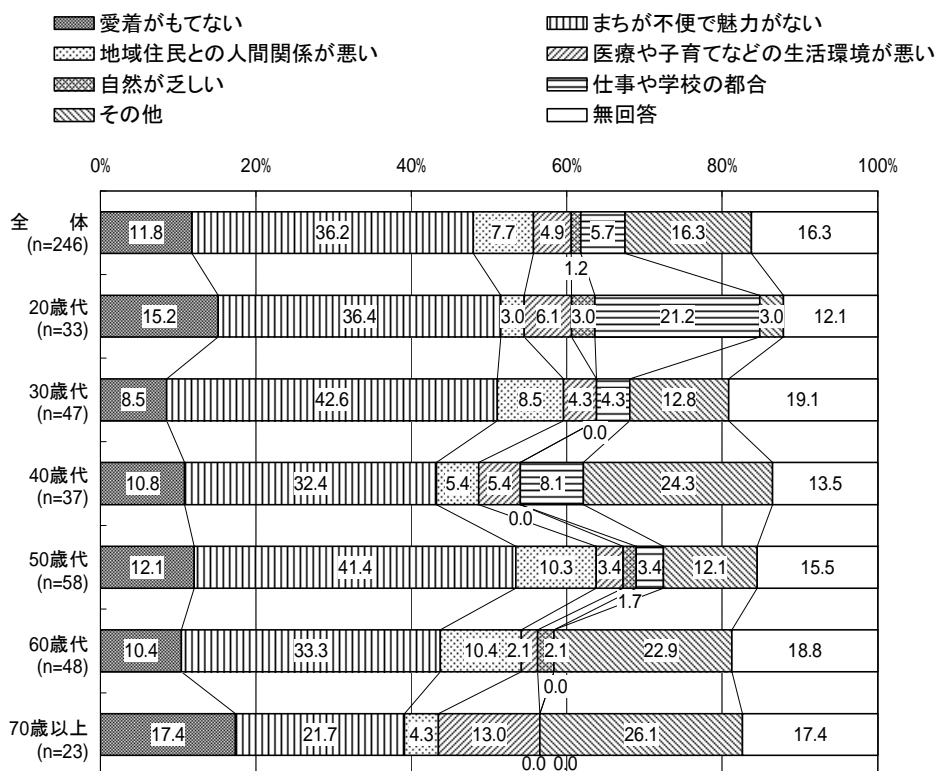
「移りたい」の理由（性別）



(年代別)

- いずれの年代においても「まちが不便で魅力がない」が最も多く挙げられている。その割合はとくに 30・50 歳代で多く 40%を超えているが、70 歳以上になると 21.7%と他の年代に比べて少なくなり、代わりに「医療や子育てなどの生活環境が悪い」が 13.0%となり、他の年代では 5%前後であることに比べて多くなる。
- それに次ぐ理由としては、ほとんどの年代で「愛着が持てない」が 10%前後を占めているが、20 歳代では「仕事や学校の都合」が 21.2%を占めて多くなっている。

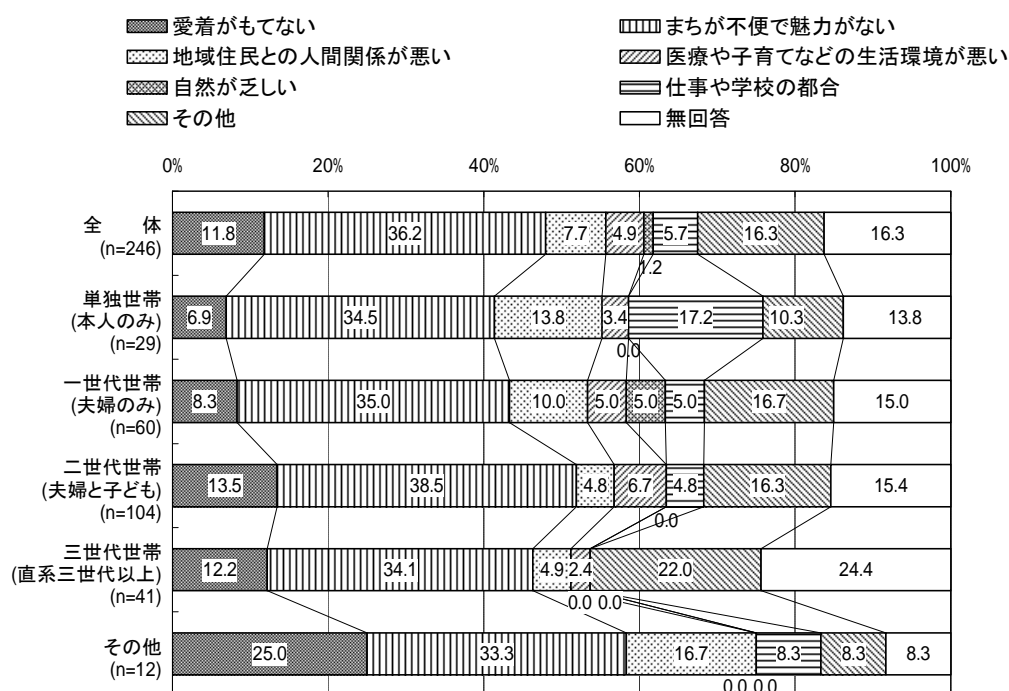
「移りたい」の理由 (年代別)



(家族構成別)

- いずれの家族構成においても「まちが不便で魅力がない」が35%前後を占めて最も多い。
- それに次ぐ理由は家族構成によって異なっており、単独世帯では「仕事や学校の都合」(17.2%)，一世代世帯では「地域住民との人間関係が悪い」(10.0%)，二世代・三世帯世帯では「愛着が持てない」(13%前後)が挙げられた。

「移りたい」の理由 (家族構成別)



(居住歴別)

- いずれの居住歴においても「まちが不便で魅力がない」が最も多く挙げられたが、その割合は大きく異なっており、「生まれたときから」「県外生まれ」では40%近くを占めているが、「一時県外」では29.3%と大きく減少する。
- それに次ぐ理由としては、「生まれたときから」では「地域住民との人間関係が悪い」(14.0%)が挙げられたが、「一時県外」「県外生まれ」では「愛着が持てない」(14%前後)が挙げられた。

「移りたい」の理由（居住歴別）

